平成 17 年度

病害虫発生予察注意報（第１号）

平成１７年５月２６日

茨城県病害虫防除所

ナシ黒星病が，平年より多く発生しています

発病の多い圃場では入梅前に防除を徹底しましょう。

作物名：ナシ

病害虫名：黒星病

［発令の内容］

発生量：多い

発生地域：県下全域

［発令の根拠］

① 5 月下旬現在，発病果そう率と果そう基部での発生地点率は，県下全域において 4 月下旬調査時よりも増加している（第 1 表)。果そう基部病斑は，葉や果実への伝染源となるため，今後感染が拡大する恐れがある。

② 5 月下旬現在，県南地域における発病果率は平年よりやや高く，果実での発生地点率は，平年より高い（第 2 表)。

③ 気象予報によると，6 月は平年並の降水量があると予想されており，今後入梅から梅雨明けまでは黒星病の発生を助長する条件である。

第 1 表　県内ナシ主要生産地域における果そう基部での黒星病発生状況

地域（調査地点数）	発病果そう率(%)		果そう基部における発生地点率(%)	
	4 月下旬	**5 月下旬**	4 月下旬	**5 月下旬**
県北（3）	0.0	**0.6**	0	**67**
県南（6）	0.0	**0.4**	0	**33**
県西（9）	0.3	**0.8**	33	**56**

第２表　県内ナシ主要生産地域における果実での黒星病発生状況（5 月下旬調査）

地域 (調査地点数)	発病果率(%)		果実における発生地点(%)	
	本年(順位 1))	平年 2)	本年(順位)	平年
県北（3)	0.0(8-11) 3)	0.4	0(8-11)	26
県南（6)	0.4（2)	0.1	83(1)	16
県西（9)	0.0（2-11)	0.0	0（2-11)	1

１）過去 10 年における本年発病果率の順位を示す。
２）1995～2004 年までの平均値。
３）8 位から 11 位まで発病果率は 0.0 であったことを示す。

［防除対策］

① **発病した果そう基部，葉及び果実は二次伝染源となるため，見つけ次第除去し，土中深く埋める。**
② 現在発病の多い圃場では，発病した果そう基部，葉及び果実を除去し，第 3 表を参考に治療効果を期待できる DMI 剤を散布する。
③ 発病が平年並の圃場においては，発病した果そう基部，葉及び果実を除去し，防除暦に基づき 6 月上旬のオキシラン水和剤 600 倍液の散布を確実に実施する。
④ 薬剤散布は，10a 当たり 300ℓを目安に，かけむらのないよう丁寧に行う。
⑤ 薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。
⑥ 薬剤耐性菌出現回避のため，DMI（EBI）剤の年間使用回数は原則 3 回以内に抑えることが望ましいが，現在発病の多い圃場では追加散布を実施する。その際，使用回数には特に注意する。

第３表　ナシ黒星病に登録のある主な DMI 剤　　(2005 年 5 月 26 日現在)

薬剤名	収穫前日数	希釈倍数	使用回数	有効成分名 (成分使用回数)
ｽｺｱ水和剤 10	14	4,000	3	ｼﾞﾌｪﾉｺﾅｿﾞｰﾙ (3)
ｲﾝﾀﾞｰﾌﾛｱﾌﾞﾙ	7	8,000 ～12,000	3	ﾌｪﾝﾌﾞｺﾅｿﾞｰﾙ (3)
ｱﾝﾋﾞﾙﾌﾛｱﾌﾞﾙ	7	1,000 ～2,000	3	ﾍｷｻｺﾅｿﾞｰﾙ (3)
ﾏﾈｰｼﾞ DF	21	6,000 ～8,000	3	ｲﾐﾍﾞﾝｺﾅｿﾞｰﾙ (3)

※農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載の使用方法，注意事項等を確認のうえ使用してください。